



2023年ゴルフ規則の追加の詳説

2024年4月9日更新

追加の詳説は通常四半期ごと(1月、4月、7月、10月)に更新され、次の更新は2024年7月となります。

2024年4月は追加なし

規則

規則5：

規則5.2：

5.2b/3-ストロークプレーのラウンド前にコース上で練習することに対する罰の適用

規則5.2b はストロークプレーのラウンド前にコース上で練習することが認められない場合を説明している。規則5.2b の罰則は、「コース上で練習すること」の文言には球を転がしたり、表面をこすることによって、ホールのパッティンググリーン面をテストすることも含んでいるので、ストロークを行うことに限定されない。

プレーヤーが1つのパッティンググリーン面をこすった場合、同じグリーン面をこすった回数に関係なく、そのプレーヤーは規則5.2b に1度だけ違反したことになる。(2022年12月追加)

規則8：

規則 8.1：

8.1a/10-プレーヤーは動かさない障害物の動かせる部分を所定の位置に戻すことが認められる

規則8.1a (2)はストロークに影響を及ぼす状態を改善する位置に動かせる障害物を置くことを禁止している。しかしながら、この制限は動かさない障害物の動かせる部分を所定の位置に戻すことには適用されない。

例えば、

- スプリンクラーヘッドが飛び出ている場合、そのスプリンクラーヘッドは所定の位置にないので、そのプレーヤーは球をプレーする前にそのスプリンクラーヘッドを押し下げることができる。
- 排水管の蓋が取り除かれていたり、外されている場合、そのプレーヤーは蓋を所定の位置に戻すことができる。

両方の事例において、そのことでストロークに影響を及ぼす状態を改善したとしても規則8に基づく罰はない。(2023年7月追加)

規則10：

規則10.2：

10.2b/1－アラインメントを援助するための自立式パターの使用は認められない

[注：実施が遅延し、自立式パターの特定の使用に対する適用は2025年1月1日に施行する。更なる情報は詳説10.2b(3)/2参照。]

自立式パターが用具規則に適合していれば、ストロークを行うために使用することができる（規則4.1a(1)）。しかし、プレーヤー（またはそのキャディー）はそのようなパターを規則10.2bに違反する方法で援助を得るために置くことはできない。

例えば、プレーの線を示したり、規則10.2b(3)に違反してストロークのためのスタンスをとる際にプレーヤーを援助するためにパッティンググリーンにある球の直後やすぐ近くにそのパターを絶たせて置いてはならない。(2022年12月追加)

10.2b(3)/1－プレーヤーがスタンスをとる援助のために球の後ろにクラブヘッドを置くことは認められる

[注：実施が遅延し、自立式パターの特定の使用に対する適用は2025年1月1日に施行する。更なる情報は詳説10.2b(3)/2参照。]

規則10.2b(3)は、プレーヤーがスタンスを取る援助とするために物（アラインメント用の棒やゴルフクラブなど）を置くことを認めていない。

しかしながら、この禁止事項はプレーヤーが球の後ろに立って、プレーの線に直角にクラブヘッドを位置させて、その後で自分のスタンスをとるためにそのクラブをそのままに留めてその球の後ろから回り込む場合など、プレーヤーが自分のクラブヘッドを球の後ろに置くことを妨げてはいない。(2022年12月追加)

10.2b(3)/2－自立式パターの特定の使用についての実施の遅延

規則10.3b(3)に基づく自立式パターの特定の使用に関する実施の2年の遅延は以下の通り施行する：

- 2025年1月1日まで、プレーヤーは、目標を定めたり、スタンスをとったり、足の位置を決める援助とするために自立式パターを球が止まった箇所直後やすぐ近くに立たせて使用することができる。
- 2025年1月1日から、規則10.2b(3)は自立式パターに適用し、その前段に規定されている行動はもはや認められない。しかし、プレーヤーは規則に適合する自立式パターをストロークを行うためや、規則で認められている他の行動をとるために使用することはできる。(2022年12月追加)

規則11：

規則11.1：

11.1b(2)/1－パッティンググリーンからプレーされた球がそのパッティンググリーン上で動いている別の球に当たる

球は、パッティンググリーン上で動いているときを含め、動かせる障害物である。

パッティンググリーンからプレーされて動いているプレーヤーの球がそのパッティンググリーン上で動いている別の球に偶然に当たったことが分かっている、または事実上確実な場合、そのプレーヤーはそのストロークが行われた箇所から元の球か別の球をプレーすることによってそのストロークを再プレーしなければならない（規則14.6参照）。（2024年1月追加）

規則14：

規則14.3：

14.3b(4)/1－規則14.7a に基づく一般の罰が適用となる

規則14.3b(4)の最後の中黒に関連して、プレーヤーが誤りを訂正せずにストロークを行ったことについて一般の罰を受ける場合、その一般の罰は誤所からプレーしたことに対する規則14.7a に基づいて適用となる。

例えば、後方線上の救済を受けているときに、プレーヤーは後方線上から1クラブレングスほど横に球をドロップした。その球は、どこに止まったかにかかわらず、たとえ後方線上に止まったとしても誤所にある。規則14.7a に基づく罰を避けるためには、球を再ドロップしなければならない。

ストロークプレーでは、プレーヤーが誤所からプレーした場合、重大な違反となる誤所からプレーしていたのであれば、その誤りを訂正しなければならない。（2023年4月追加）

委員会の措置

ローカルルールひな型 E-13

E-13－プレーヤーはルースインペディメントと定義されない動物を球の近くから取り除くことができる

目的：動物がプレーヤーの球に触れていたり、球の近くにいる場合、そのプレーヤーはその動物が動くように働きかけることができ、プレーヤーに動くように働きかけられているときにその動物が球を動かしたときは規則9.6が適用される。

その動物が動かない場合、そのプレーヤーはその動物を取り除いてその球を動かす原因となる罰（規則9.4b）のリスクを負うか、罰ありの救済（規則17.1や規則19.1）を受けるか、あるいはその動物が依然として球に触れていたり、球の近くにいるままでその球をあるがままにプレーするかを選択できる。

このローカルルールはプレーヤーがルースインペディメントと定義されていない動物を規則9.4に基づく罰なしに取り除くことを認める。

ローカルルールひな型 E-13

「プレーヤーは、球に触れていたり、球の近くにいるルースインペディメントと定義されている動物以外の動物を罰なしに取り除くことができ、その取り除きはどのような方法で行ってもよい。

プレーヤーがその動物を取り除いている間にその球が動いた場合：

- 罰はない
- その球を元の箇所に戻さなければならない（分からない場合は推定しなければならない）（規則14.2参照）

ローカルルールに違反して誤所から球をプレーしたことに対する罰：規則14.7に基づく一般の罰。
(2023年7月追加)

ローカルルールひな型 M-4

M-4—車輪付き移動器具を使用するプレーヤーのためのバンカー内の球の限られた救済

目的：バンカーのデザインや形状は、車輪付き移動器具を使用するプレーヤーがその器具の大きさや限られた操縦性のせいで、自分の意図するプレーの線上へのストロークを行うための位置取りをすることが不可能である、あるいは不合理な努力を必要とする状況をしばしば引き起こします。

そうした状況の例は、プレーヤーが車輪付き移動器具を使用していなかったならば球をあるがままの状態プレーすることが通常は可能であるが、バンカー周辺の壁、縁、あるいは傾斜によってプレーヤーがスタンスをとることができなかつたり、バンカー内の砂の傾斜の程度によってプレーヤーがスタンスをとるために不合理な努力が必要となる場合を含みます。

そうした状況がある場合、このローカルルールはその同じバンカー内で罰なしの救済を受けるという選択肢をプレーヤーに認めています。

このローカルルールは、そのバンカー内のどこかで罰なしの救済を受けることがより望ましかったとしても、プレーヤーが合理的な努力でスタンスをとることができる場合があるので、その球をあるがままの状態プレーするスタンスをとるために不合理な努力を必要とする場合について、プレーヤーが正直な評価を行うことを求めています。また、座った位置でストロークを行うかどうかにかかわらず、その競技に参加しているすべてのプレーヤーにとってその球をあるがままの状態プレーすることが明らかに不合理となるという理由で、プレーヤーが罰なしの救済を受けることが認められない場合もあります。

ローカルルールひな型 M-4

「プレーヤーの球がバンカー内に止まった場合、車輪付き移動器具を使用しているプレーヤーは、その球をあるがままの状態、意図するプレーの線上にプレーするためのスタンスをとることが下記のいずれかの場合、その同じバンカー内で罰なしの救済を受けることができる。

- 不可能である（例えば、そのバンカー周辺の壁、縁、あるいは傾斜がプレーヤーの車輪付き移動器具の位置取りを妨げる場合）。または、
- 不合理な努力を必要とする（例えば、プレーヤーが車輪付き移動器具を操縦して砂地の傾斜を上ることができない場合）。

そのプレーヤーは、元の球か別の球をこの救済エリアの中にドロップして、そこからプレーすることにより、罰なしの救済を受けることができる。

- 基点：不合理な努力なしに、プレーヤーの車輪付き移動器具を位置させることができる場所で、そのバンカー内でそのプレーヤーの球を位置させることができる最も近い箇所（ホールに近づいてもよい）。
- 基点から計測する救済エリアのサイズ：どの方向にも1クラブレンジ。しかし、次の制限がある：
- 救済エリアの場所に関する制限：
 - その同じバンカー内でなければならない。

例外—スタンスをとることが不可能であっても救済はない。次の場合、このローカルルールに基づく罰なしの救済はない。

- そのプレーヤーはスタンスをとることができない、あるいはスタンスをとるために不合理な努力が必要となるという以外の何か別の理由（例えば、急勾配の砂地の面を持つバンカーに球が埋まっている場合）で、その球をあるがままの状態プレーすることが明らかに不合理である。
- そのプレーヤーが罰なしの救済を受けることができる状況を、以下の理由のみで作り返す：
 - プレーヤーが明らかに不合理なプレーの方向を選択する（例えば、球を直接アウトオブバウンズやペナルティーエリアの中に向けてプレーしようとする、スタンスをとることに不合理な努力が必要となる）。または、
 - プレーヤーが明らかに不合理なクラブやスイングの種類を選択する。

ローカルルールに違反して誤所から球をプレーしたことに対する罰：規則14.7aに基づく一般の罰。」
(2024年1月追加)

例外が適用される場合の状況の事例を含め、ローカルルールひな型 M-4の適用を詳述している文書は [こちら](#) から閲覧できます。(2024年1月追加)